**第３回家庭部門会議の概要**

**１．テーマ**　　**今年度の家庭部門会議おける取り組みと来年度のテーマについて**

**２．目的**

・電力・ガス小売全面自由化の府民への理解促進や環境教育、省エネ啓発についての効果的な手法について、意見交換を行う。また、各団体が実施している取り組みについて紹介していただく。

・今年度の家庭部門会議における取り組みを整理したうえで、来年度のテーマについて意見交換を

行う。

**３．会議の開催**

**（１）日時：**平成30年3月7日（水)　14時～16時

**（２）場所：**あべのルシアス　大阪市環境局　第１会議室

**（３）出席者**

【消費者団体、環境NPO】

なにわの消費者団体連絡会、NPO法人関西消費者連合会、全大阪消費者団体連絡会、

公益社団法人全国消費生活相談員協会、公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサ

ルタント相談員協会、NPO法人住宅長期保証支援センター、NPO法人摂津市人材サポート・

ビューロー、NPO法人大阪環境カウンセラー協会

【エネルギー供給事業者】

関西電力(株)、大阪ガス(株)、（一社）大阪府ＬＰガス協会

【国・自治体等】

近畿経済産業局、近畿地方環境事務所、大阪市、堺市、門真市、大阪府地球温暖化防止

活動推進センター、大阪府

**（４）概要および意見等**

**①電力・ガスシステム改革における啓発について**

**＜電力・ガス小売全面自由化についての府民への啓発＞**

○概要

・前回の会議（第２回）の場で、電力・ガス小売全面自由化についての府民への啓発方

法として、府のＨＰ案を示し意見交換を行った。その際に出た意見を踏まえ、新たに紙媒体での啓発を行うこととし、意見を伺った。

　　　　　○主な意見等

　　　　　　・自由化の制度について、制度の仕組みがわかりにくいというところで、高齢者が詐欺に合う被害が生じている。

・紙媒体に掲載する情報が多くなりすぎると良くないため、消費者保護・トラブル対応は消費

者団体に任せるべきではないか。行政は基本的な自由化の経緯や目的等の概要をしっか

　　　　　　　り府民に理解してもらうことに特化してはどうか。

　　**＜電気料金の経過措置の撤廃を想定した検討課題についての意見＞**

○概要

　　　　　　・公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント相談員協会から、電力・ガス基

本政策小委員会に提出している、電力料金の経過措置の撤廃に対する意見について、説明した。

　　　　　○主な意見等

　　　　　　・自由化は安くなるとは限らない。電力について言えば、自由化前は弱者を守るために電気

の使用量が少ない人ほど安かった。しかし、商品は多く買うほど単価が安くなるもので、自由

化すれば電気を使う人ほど安くなるのは、当然である。

**②環境・エネルギー教育の推進について**

**＜教材冊子「考えよう！地球温暖化とエネルギー」の配布結果とゲーム感覚で学べる地球**

**温暖化・エネルギーに関する環境教育＞**

○概要

　・今年度、府内の小学５年生に配布した教材冊子の活用状況等のアンケート結果につい

て報告した。

　　　　　　 ・近年では、ゲーム感覚で学べる環境教育について話題となっており、その啓発ツール等に

ついて整理し、情報提供を行った。

　　　　　　○主な意見等

　　　　　　　・忙しい先生方にも教材冊子を活用していただけるような先生側への取り組みが必要だ。

　　　　　　　　⇒エネルギー政策課では、昨年度から各小学校を周って先生方に環境教育について指導をする教育委員会の方へ、環境教育の情報を伝えている。

　　　　　　　・冊子を活用している学校の取り組み例や、教科に連携できている学校・連携できていな

い学校がある実態を調査してみてはどうか。

**＜ナッジを活用した環境教育の実証事業について＞**

　　　　　　○概要

　　　・東京ガスと住環境計画研究所が取組む、ナッジを活用した環境教育の実証事業の概

要と実証校の募集について紹介した。

　　　　　　○主な意見等

　　　　　　　・電気の使用量について他人と比べる場合、高齢者がいる家庭では多くなってしまう。環境

　　　　　　　 家計簿を持ってくる人には、１年前の自分と比べるよう言っている。

　　　　　　　・教室で自分の家の電気使用量を他人に伝えるのは、使用量が多い家庭では難しい。経験上、親がだらしないと思われかねないので、親が子どもに学校へ出させないという家庭があった。

**③家庭部門における省エネ取組の推進について**

**＜キッチン周りの省エネ啓発と大阪ガスの取り組みについて＞**

　　　　　　○概要

　　　　　　　・料理教室等と連携したキッチン周りの省エネ啓発について、冷蔵庫に特化し、賢い使い方や買い替えのメリットについての啓発内容を整理し、事務局が説明した。

・大阪ガスが実施するエコ・クッキングの取組みについて、大阪ガスから説明した。

（※エコ・クッキングは東京ガス（株）の登録商標）

　　　　　　○主な意見等

　　　　　　　（キッチン周りの省エネ啓発）

　　　　　　　・経済的なメリットだけではなく、冷蔵庫を賢く使うことによって、「もっとおいしく食べれらるよ」

という食品の観点から、啓発してみてはどうか。

　　　　　　　（大阪ガスの取り組み）

　　　　　　　・エコ・クッキングは一般の人でも申し込めるのか。

　　　　　　　　⇒団体の申し込みであれば可能。

　　　　　　　・子どもたちの遠足の場合、参加費の扱いはどうなるのか。

　　　　　　　　⇒ハグミュージアムが会場の場合では、通常1,200円のところ、材料費で400円いただいている。その場合は、エコ・クッキングだけではなく火起こし体験や防災の教育も一緒に実施している。

　　　　　　**＜ＺＥＨの普及・啓発について＞**

　　　　　　　○概要

　　　　　　　　・大阪府内の現在のＺＥＨ普及率など現状と課題を共有し、今年度に大阪府が実施

したイベント等の取り組みについて紹介した。

　　　　　　　○主な意見等

　　　　　　　　・新築だけではなく、既存の建てものの省エネ化、リフォーム等のＰＲをしてはどうか。

　　　　　　　　・空き家について価値をつけて市場に出すという仕事をした経験から、耐震は命に関わる

ため受け入れられるが、省エネは高いと言われたことがある。

　　　　　　　　・大阪府は窓の改修への補助金を行う予定があるのか

　　　　　　　　　⇒今のところ考えていない

　　　　　　　　・いくつかの政令市では、ＺＥＨに対して補助金を出しているところがあるが、府内の市

町村でＺＥＨに対する補助金を出す動きがあるのか。

⇒そもそもハウスメーカーや工務店への訪問では、補助金がＺＥＨの費用の金額に対

して少額であり、補助金があるからＺＥＨ住宅を買おうという方は全体からしたら少

ない。現状は補助金よりも、ＺＥＨを知ってもらう所から始めるべき。

　　　　　**＜大阪府の来年度新規事業について＞**

　　　　　　　○概要

　　　　　　　　・来年度の大阪府の新規事業「家庭の省エネ・エコライフスタイル推進強化事業」について、推進員が簡易的な省エネアドバイスができるよう養成し、省エネ相談会を実施するといった概要を紹介した。

　　　　　**＜大阪府地球温暖化防止活動推進センターの取り組みについて＞**

　　　　　　　○概要

　　　　　　　　・今年度に実施した一般向けの冬の省エネセミナー「知ってトクする！窓と省エネの深～い関係」について、大阪府地球温暖化防止活動推進センターから開催報告を行った。

　　　　　　　○主な意見等

　　　　　　　　　・セミナーの後に、省エネについての個別相談会をしてみてはどうか。

**④来年度の家庭部門会議のテーマについて**

　　　　　　　○概要

　　　　　　　　・今年度の大阪府が実施した家庭部門における取り組みについて整理し、来年度のテー

マについて意見交換を行った。

　　　　　　　○主な意見等

　　　　　　　　・電力・ガス自由化については、制度の基礎的な話や規制料金撤廃のような具体的な

話を協議内容にしてはどうか。

・前回の会議で、電源構成がわかりにくいという御意見があったが、事業者には望ましい

行為・望ましくない行為が記載された国のガイドラインがあるので、まずは、消費者団体

の方に事業者に課せられているルールについて、御理解いただく場を設けてはどうか。

　　　　　　　　・エネルギー教育については、エネルギー基本計画等の国の動きは府民の方に馴染みがないので、わかりやすいものにして紹介してはどうか。

　　　　　　　　・大阪ガスの取り組みのように、エネルギーに特化するのではなく楽しいことと一緒にできた

ら面白い。スマ協の場で考えていけたらいいと思う。

　　　　　　　　・ナッジの取り組みについて、東京都では大学生協と連携して、普通の冷蔵庫と省エネの冷蔵庫で効果検証を行うという取り組みを行っている。現在は家電量販店で行う動きがあるが、大阪府はそういう動きがあるのか。

　　　　　　　　　　⇒ナッジの観点も踏まえて、新規事業の取り組みを行っていく。また、インターネットの

アンケート調査で、省エネ行動の伝え方の違いで意識の変化に差があるかというこ

とを検証する取り組みについて試行的に実施している。

　　　　　　　　　・チラシ等の啓発について、意見を取り入れすぎると伝えたいことがわからなくなってしまう

から、情報を絞った方がいい。

　　　　　　　　　・教育については、教材冊子と連携して出前講座やゲーム感覚を絡めて、学校に定着

しやすいものにした方がいい。

　　　　　　　　　・「宝塚市エネルギー2050ビジョン」では、市民全員を「エネルギープロシューマー」にす

るという目標を掲げており、市民のエネルギーの消費者全員が再エネ事業への出資

等の形で発電者側に関わるという長期目標が記載されている。そのような、自治体

等の事例について情報提供いただいたら、また違った視点の議論になると思う。

以　上